

## 5 強度行動障害のある児童・生徒への緊急時の対応

### (1) 教員が対応する際の留意点

学校は、児童・生徒にとって安心・安全な場でなければなりません。教員が対応する際には、本人はもとより、他の児童・生徒、教員の安全を確保することが何よりも重要です。

緊急時であっても、自らを傷つけないように守り、他者を傷つけさせないように、複数の教員で対応すること、周囲が騒ぐことによってパニック等に拍車がかかることもあることから、できるだけ他の児童・生徒等と離れた場で対応することが必要です。

学級担任だけではなく、学校全体で対応できるように、個別指導計画に記載の上、校内での支援会議などを活用し、共通理解のもと指導に当たるよう体制整備に努めましょう。

また、平常時から、保護者と話し合い、緊急時の対応について、共通理解を得ておくことや、事後に速やかに報告することも必要です。

### (2) 緊急時に備えた環境整備

強度行動障害のある児童・生徒が危険性のある行動を起こした時に備えて、本人や周囲がけがをしないようにする環境を整えることが大切です。

必要に応じて、ガラス窓に飛散防止フィルムを貼ったり、建具の角には緩衝材を貼り付けたり、投げられると危険なものは置かないようにすることも有効です。

壁や床に身体を打ち付けてしまう児童・生徒の場合は、身体を自傷から守るためのクッション材や防災頭巾などを普段から近くに取り出せるようにしておくことも工夫の一例です。

また、児童・生徒が興奮を鎮めるためのスペースが作れる場合は、他の児童・生徒から離す意味でも、別の場所に誘導することも有効です。

物が少なく薄暗い場所の方が落ち着きやすい、校庭など外の空気を吸える場所の方がよいなど、児童・生徒の状況や各学校の環境に応じて、保護者の理解を得た上で、環境整備を行うとよいでしょう。

## 事例⑩ 緊急時の対応

基本情報	Dさん、高等部、愛の手帳2度、自閉症	
コミュニケーション手段	基本的になし たまに、クレーン現象で意思表示をする。	
問題となる行動の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自傷                    ■他害                    ■激しいこだわり                    ■器物破損</li> <li>■偏食                    ■排せつ関連                    ■多動                    ■大声を出す</li> </ul>	
問題となる行動の詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目つぶし。鼻を殴る。物を投げる。殴る。蹴る。                    ・机を倒す。</li> <li>・嘔吐しながら廊下を歩く。誤飲                    ・失禁、放尿</li> </ul>	
考えられる原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>■要求    □注目    □逃避    □感覚</li> <li>(不安、コミュニケーション手段のなさ) 思いが伝わらない。見通しが外れた場合もあるが、単純な不快感や疲れの場合もある。</li> </ul>	
指導方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と長期目標、スモールステップでの短期目標を共有し個別指導計画に記載</li> <li>・絶対に叱らない。                    ・不要な介助はしない。</li> <li>・一度決めたこと(本人との約束)は徹底する。</li> </ul>	
指導・支援内容とその結果	指導・支援内容	結果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>実態把握</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題となる行動が起きやすい場面を把握</li> <li>・緊急時の対応を教員間、保護者と共有 応援を呼べるような体制(無線機や笛)</li> </ul> </li> <li>○ <b>自傷</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは怪我をさせないことを優先した。</li> <li>・本人の気落ちに寄り添う言葉掛けをした。</li> </ul> </li> <li>○ <b>他害</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り落ち着ける場所に移動した。</li> <li>・危険性のある行動を起こした児童・生徒への対応についての校内研修を実施した。</li> </ul> </li> <li>○ <b>物損</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り事前に保護した。</li> <li>・物損が始まったら他の危険物を離れた。</li> </ul> </li> <li>○ <b>遊出</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動パターンの把握を行った。</li> <li>・窓や教室の施錠などを徹底した。</li> </ul> </li> <li>○ <b>誤飲・誤食・異食</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険物は隠した。</li> </ul> </li> <li>○ <b>不適切な排せつ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終了後は場所を速やかに移動した。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメント、未然防止に努めることができた。</li> <li>・緊急時には複数人で対応できた。</li> <li>・大きなけがは防げた。</li> <li>・信頼関係構築の基礎になった。</li> <li>・教員の怪我は生徒や保護者を悲しませるので怪我をしないようにした。</li> <li>・万が一の物損に備えた。</li> <li>・被害を最小限に抑えられた。</li> <li>・未然防止ができた。</li> <li>・全校に呼びかけ安全対策を強化</li> <li>・不適切な排せつを減らせた。</li> </ul>